２０２１年度

大学院文学研究科博士課程前期２年の課程入学試験

（　秋期・社会人特別選抜　）問題

筆記試験　　日本思想史　　専攻分野

試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけない。

受験記号番号

2021年度

大学院文学研究科博士課程前期2年の課程入学試験

（秋期・社会人特別選抜）問題

筆記試験（ 日本思想史 専攻分野）

一、日本思想史に関し、今後どのような事柄をどのような方法で研究したいと考えているか、その計画を記しなさい。（20行程度）

成　　績

受験記号番号

二、伝統芸能を日本思想史的な観点から分析する場合、想定し得る利点ならびに配慮すべき注意点について論じなさい。（２０行程度）

受験記号番号

三、次の史料をわかりやすい現代語に直しなさい。（２０行程度）

堀河院の御時、六条院に朝覲行幸ありけるに、池の中島に楽屋を構へられたりけるに、御所、水をへだててはるかに遠かりけり。博定勅をうけたまはりて太鼓をつかうまつりけるが、壺よりも進めて撥（ばち）をあてけり。後日に博定、元正にあひて、「昨日の太鼓はいかがありし」といひければ、元正、「めでたくうけたまはりき。但し、すこし壺より進みてぞ聞えし」といひければ、また問ひけるは、「壺はうち入れたるたびやまじりたりし。はじめをはり同じほどに進みて侍りしか」といふ。元正、「始終進みて終りにき」とこたへければ、博定、「さては意趣に相叶ひにたり。そのゆゑは、楽こそ引きはなれぬ事なればかすみわたれ、遠くて物をうつは、ひびきのおそくきたるなり。されば御前にては、壺にうち入りて、よくぞ聞しめしけん」とぞいひける。「この心ばせ、思ひよらざる事なり。めでたし」とぞ、元正感じける。

六条院：白河院が承保二年（一〇七五）に藤原顕季に造営させた六条内裏。

朝覲行幸：堀河天皇の白河院拝謁のための行幸。

博定：藤原博定。兵庫頭知定の猶子。民部大輔・楽所預。

壺：撥を当てる本来の間合い。

元正：大神基政。鳥羽天皇の笛の師。一一一二年、雅楽属、一一二八年、楽所勾当。

【『新潮日本古典集成 古今著聞集 上』（新潮社）を一部改変】

（以下、解答欄）

受験記号番号